

福祉心理学研究法特論

単位数

履修方法(授業形態)

配当学年

2単位

SR(講義)

1・2年

担当教員

柴田 理瑛

■授業のテーマ

科学的研究とはどういうものか、心理学で用いる研究法の意味と適切な活用について学ぶ

■授業の目的

実証科学で用いられる研究法としての基本的な考え方と分析方法を理解し使えるようになることで、「心理学に関する研究課題を自ら設定し、心理学研究法を用いて研究することができること」など「心理学的研究能力の修得」を目指す。

■授業の到達目標

- ・心理学の論文を読解することができる。
- ・仮説が検証しようとするものにあわせた研究方法を提案することができる。
- ・統計ソフトを用いたデータ処理の基本的作業を解説書に基づいて行うことができる。
- ・データ処理の結果を心理学のフォーマットに沿った適切な文書で表現し、説明することができる。

■授業の概要

この科目が主眼とするのは、修士論文作成に向けて「心理学の研究」を理解してもらうことです。

修士論文の作成をするにあたり、皆さんは自分の研究テーマに基づいて、まずはこれまでの研究で既に明らかになっている知見を理解・整理し、そして新たな知見を生み出すことの2つが求められます。本科目の中心となるのは、①専門的な論文(学会誌に掲載されている論文)の読解、②データ収集法・統計処理法の理解、の2点です。

まず①として、その研究の要因・変数設定(独立変数と従属変数)、仮説(変数間の関連の想定)、仮説に応じたデータ収集法とデータ処理法の使い方、データ処理の結果に基づいた「知見」のまとめ方を読み取る訓練をします。

次に②として、主に質問紙法にのっとってデータ収集する際の基本事項、仮説に対応した統計手法の選択の仕方を、実際に統計解析ソフト SPSS 等を用いたデータ処理実習を通じて学んでもらいます。

■スクーリングの事前課題(学修時間の目安:20時間)

初回のスクーリングの前に、「独立変数」「従属変数」「仮説」「相関関係」「因果関係」といった、研究を進める上での基本用語について学修しておいてください。

■スクーリング授業計画(7~12は実技となり会場での受講が必須となります)

教科書① 心理学研究法(ライブラリ心理学の杜3)

教科書② SPSSとAMOSによる心理・調査データ解析

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント	授業の方法
1	心理学研究法の基礎 教科書①「1章1.3心理学と科学的なアプローチ」	研究とはどのように進められるか、仮説検証のロジックについて説明する。 キーワード: 仮説検証型、仮説生成型	研究は仮説検証型と仮説生成型に分かれ、前者は理論から検証、後者はデータから仮説を導くといった違いについて学修する。	オンデマンド

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント	授業の方法
2	統計学の基礎 教科書①「2章実証的な研究方法」	統計学の基本的事項について学ぶ。 キーワード：操作的定義、記述統計、尺度水準、平均値、標準偏差	4種類の尺度(ものさし)とその具体例について、さらには「量的データ」と「質的データ」について学修し、データのばらつきの指標として「分散」「標準偏差」について学修する。	オンデマンド
3	実験・研究の基本的事項 教科書①「3章実験法(1)」	研究計画、構成概念の測定法など、研究を行う上での基本的事項を学ぶ。 キーワード：独立変数、従属変数、剰余変数	研究論文を読み理解するための前提として、研究を行う上での基本的な概念について学修する。	オンデマンド
4	文献検索法 教科書①「12章文献検索法」	研究に必要な論文の検索の仕方を学ぶ。 キーワード：学会誌、google scholar、JStage	先行研究を踏まえて自らの研究を行うための方法として研究論文の「検索の仕方」について学修する。まずは、論文の基本的構成について学修し、検索の仕方や文献のレビューについて学修する。	オンデマンド
5	研究論文の読解①：問題・方法の読解ポイント	研究論文を読み、批判的に検討する。 キーワード：背景、仮説、先行研究、参加者、回答者、尺度	第1回目から4回目の内容を踏まえつつ学会誌に掲載された学術論文を読解し、批判的読解法を実習形式で学ぶ。	オンデマンド
6	研究論文の読解②：結果、考察の読解ポイント	5回目引き続き、研究論文を読み、批判的に検討する。 キーワード：有意差、仮説の支持、不支持、展望	5回目引き続き、1回目から4回目の内容を踏まえつつ学会誌に掲載された学術論文を読解し、批判的読解法を実習形式で学ぶ。	オンデマンド
7	データ分析①：データ入力、記述統計 教科書①6章「調査法(2)」 教科書②	エクセルによるデータ処理の実習、特にデータ入力について。 キーワード：コーディング、欠損値処理、逆転項目、合成変数、記述統計	架空の研究例及び模擬データを用いて、データ入力から統計処理までの一連の流れを実習する。初回は特にデータ入力から統計処理の前段階までの部分を実習する。	対面(会場)
8	データ分析②：因子分析① 教科書①6章「調査法(2)」 教科書②7章「因子分析を使いこなす」	因子分析でできることを理解する。 キーワード：潜在変数、共通因子、因子分析、固有値、因子負荷量、直交回転、 α 係数、逆転項目、下位尺度、群の作成	多くの研究で用いられる多変量解析である因子分析について、因子分析で何ができるのか、出力結果のどこに着目して結果を理解するのかについて学修する。模擬データを用いて因子分析及び下位尺度の作成手順について実習する。	対面(会場)
9	データ分析②：t検定 教科書② 3章1「相違を調べる方法」 3章3「t検定」 3章6「代表値と散布度」	t検定を使ってみる。 キーワード：対応あり・なし、量的・質的データ、t検定、分散、SD、平均、対応あり・なし	「相違を示す統計的手法」にもさまざまな方法があるので、どの場合にどの方法を用いるのか、その選択基準について理解する。次いでt検定の実習を行い、併せて代表値とデータの散らばりについても学修する。	対面(会場)
10	データ分析③：分散分析 教科書② 4章1「分散分析とは」 4章2「1要因分散分析」 4章3「2要因分散分析(1)」	分散分析を使ってみる。 キーワード：要因配置、分散分析、多重比較、対応あり・なし(被験者間・被験者内)、2要因分散分析、主効果、交互作用	要因配置と分散分析のデザインをまず学修する。その上で分散分析の基本として2要因分散分析と単純主効果検定を実習する。特に「交互作用」について学修する。	対面(会場)
11	データ分析⑤：相関 教科書② 2章「相関と相関係数」 3章2「 χ^2 検定」	相関分析を使ってみる。 キーワード：尺度水準、連関、相関、因果関係、疑似相関、偏相関	尺度水準で異なる関連の示し方を学び、特に相関分析について実習を通して理解する。	対面(会場)
12	データ分析⑥：重回帰分析 教科書② 5章「重回帰分析」	重回帰分析を使ってみる。 キーワード：相関、因果関係、回帰分析、標準偏回帰係数、決定係数、説明変数、被説明変数	相関に引き続き、複数の説明変数から1つの被説明変数を予測・説明するための方法としての重回帰分析について実習を通して学修する。	対面(会場)

■スクーリングの事後課題

課題 1	スクーリング時に配付するデータについて、統計的手法を用いて分析し、その結果を整理した後、仮説が支持されたかどうか検討すること。なお、この課題はスクーリング受講中もしくは受講後2026年9月末までに事務室へ提出すること。
課題 2*	各自興味のある研究論文を検索し、その論文の要約を1,200字で作成しなさい。ただし、レポートの形式は、目的、方法、結果、考察の形式をとるものとする。

※課題2のレポートは、課題レポート締切日2026年11月末までに提出してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス



スクーリング受講時に指示します。



課題2は、各自論文検索を行い、興味のある論文をダウンロードしていただきます。ダウンロードした論文は、目的、方法、結果、考察の形式で、1,200字以内で要約を作成してもらいます。この際、紀要論文は避け、学会が発行している論文を選択するようにお願いします。

■評価の方法・基準

講義後のレポート50%、講義内の統計処理実習作業まとめレポート40%、講義内のグループワークへの参加・貢献度10%

■参考文献（*印=大学から送付される必読図書）

- *1) 本多明生・山本浩輔・柴田理瑛・北村美穂『心理学研究法（ライブラリ心理学の杜3）』サイエンス社、2022年
- *2) 小塩真司『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析（第4版）』東京図書、2023年
- 3) 小塩真司『研究事例で学ぶSPSSとAmosによる心理・調査データ解析（第3版）』東京図書、2020年（2）の続編にあたる本です。講義では使用しません

その他、目的別にあげておきます。

【統計・SPSSの理解】

- 小塩真司『入門 SPSSによる心理・調査データ解析』東京図書、2024年
- 寺島拓幸・廣瀬毅士『心理学・社会学のためのSPSSによるデータ分析』東京図書、2022年
- 内田治『すぐわかるSPSSによるアンケートの調査・集計・解析 第6版』、2019年
- 今野紀雄『ニュートン式 超図解 最強に面白い!! プレミアム確率』ニュートンプレス、2023年
- 今野紀雄『ニュートン式 超図解 最強に面白い!! 統計』ニュートンプレス、2019年

【研究読解・執筆】

- 松井豊『三訂版 心理学論文の書き方』河出書房新社、2022年
- 近藤龍彰・浅川淳司『心理学論文解体新書』ミネルヴァ書房、2022年
- 戸田山和久『最新版 論文の教室』NHK出版、2022年
- 浦上昌則・脇田貴文『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方（改訂版）』東京図書、2020年
- J・メルツォフ著・中澤潤翻訳『クリティカルシンキング 研究論文篇 心理学と関連領域』北大路書房、2005年